

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201022		
法人名	社会福祉法人 松園福祉会		
事業所名	あすなろ園 柏台グループホーム		
所在地	倉敷市玉島柏台5-1-1		
自己評価作成日	令和元年7月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	令和元年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者自身が誇りを持てる活動と役割がある喜びを皆で共有し、意欲的に楽しい時間を過ごせるよう援助している。また、認知症への理解を深める研修や認知症予防の取り組みにより、本人の保たれている認知能力を少しでも維持、向上できるように働きかけを行い安心して暮らせるよう支援している。地域活動への参加や地域と合同の行事や防災訓練を通じ、地域とのつながりを大切にしている。家族会は奇数月に開催し、半数以上のご家族が毎回参加し、利用者の生活状況等、情報交換を行ったり、家族同士の親睦を図る機会にもなっている。その他、全室にトイレを設置しプライバシー保護と共に日常生活動作の自立維持を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夫婦入所が2組あるこのホームでは、顔馴染みの関係が構築出来ており、和やかで家庭的な空気が漂い利用者同士も仲が良い。日常リハビリとして料理・掃除等出来る事はしてもらい自立維持・身体機能向上に効果を生んでいる。女性ばかりの1階では、2階と雰囲気が異なり、静かで連帯感のある落ち着いた空気を醸し出している。両ユニットの共通した特徴は、回想法を集団レクに取り入れ利用者としてしっかり会話をしてコミュニケーションをよく取っている事だ。利用者の明るい笑顔と笑い声がここでの充実した生活をよく表している。職員も男女共若い人が多くそのパワーに私達の方が圧倒される程で、「心のケア」の大切さを十分理解して、一人ひとりの利用者によく向き合っている。今年度は数名の人生の終焉に立ち会ったと聞いたが、最期まで同ホームで一緒に生活し、妻に見守られて旅立った人はさぞ幸せだったに違いない。そんなアットホームな「あすなろ園柏台GH」の更なる飛躍を楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに部署内で理念実現の為に何をすべきか。年間目標を作成している。目標達成に向け実践できているか部署会議や面談を行い確認している。	法人の理念をよく目につく場所に掲示して基本姿勢である「和顔心」を日々実践し、職員は心からの笑顔で利用者と接するように心掛けている。またホームの目標の一つである「心のケア」を大切に、回想法を取り入れて日々利用者としてしっかり話しコミュニケーションを取るよう努めている。	豊かな生活の実現の為に、心の内にしまい込んでいる懐かしい記憶や思い出話等をしっかり聞き出し(記憶の想起)、その人の輝いていた時代、自慢話を語らせてあげ、これからも満足感や高揚感を味わってもらう取り組みを続けて下さい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事への参加(餅つきや町内清掃、秋祭りには子供神輿が来園したり、等)、地域住民と合同避難訓練を実施している。あすなる園柏台まつりを開催(地域住民と協力し、屋台や町内の活動グループによるステージ開催など)参加している。	開設当初から地域との様々な交流を通して結びつきが深く、「認知症予防塾」「いきいき元気体操交流会」等への協力や地域のボランティアの訪問もある。また、市民交流センターへ利用者と展示物の見学に行く等地域交流も活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あすなる園柏台デイサービスと一緒に柏台地区の地域貢献事業として、地域住民対象に「認知症予防塾」を開催している。(月1回)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や入居者の生活の様子、ヒヤリ・ハットや事故報告を行い、会議で出された意見やアドバイスを利用者のサービス向上に繋げている。また、認知症への理解を深める機会になっている。	2ヶ月毎に隣接するデイを開催場所にして、町内会長・副会長・民生委員等の地域住民や家族・包括職員・他GH職員等が参加して運営推進会議を開催している。参加者から「利用者が入院中居室はどうしているのか」等の質問もあり、運営に関して活発な意見交換をしているのが議事録から確認出来た。	運営推進会議規則に則り、毎回家族代表者1名の参加があるが、家族会での報告だけでなく、参加していない他の家族に対して議事録を送付する等して情報の共有を図りたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアプラン作成や介護認定の手続き等について不明な点等確認しておきたいことは連絡を取り、意見を頂いている。	運営推進会議へ毎回包括職員の参加があるので、情報提供をしてもらったり、ホームの現状をよく理解してもらっている。また、日々の業務において、入院加算の件等、不明な点は市の担当者にその都度電話で相談をしている。市の集団指導への参加やホームへの実地指導もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をしていない。身体拘束をしないケアについて正しい知識を身につけ、行動制限しない支援に努めている。	防犯上の問題点が話題に出る事もあるが、今のところ身体拘束が必要な人はなく、玄関は自由に出入り出来るようにしている。身体拘束の適正化について定められた通りに外部研修や内部研修等を3ヶ月に1回行い、職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5月に虐待防止について部署内研修を実施し、虐待に関する認識を深めることで虐待防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	12月に権利擁護に関する内部研修を行った。権利擁護、成年後見制度制度についての資料を職員に配布し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に不安などを尋ね、説明を行っている。疑問点があった場合にはその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族による家族会を奇数月に1回(第2日曜日)開催しており、意見を聴く機会を設けている。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議にご家族が参加し、意見をいただいている。	家族会を2ヶ月に1回実施しており、近隣に住む家族が多い関係もあり、毎回多数の家族の参加がある。家族から「ケアプランが分かりづらい」等の意見を聞き、ケアプランの更新時には面談や電話をするように改善をした。面会時には家族に状況報告をして意見や要望を積極的に聞くように努めている。	家族会を定期的に開催し、その都度多くの家族の参加があり、日頃から信頼関係・協力関係がよく出来ている。意見交換を気軽に出来る雰囲気もとても良いと思う。今後は参加出来ない家族へのアプローチも検討してみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署内では毎月1回会議を開催し、職員の意見を聴く機会を設けている。その場で運営に関する意見や提案を聴く機会を設けている。又、随時意見や提案があれば反映できるように努めている。	ヒヤリハットの事例から、「トイレでの介助において、バランスを崩すことがあるので照明を自動点灯にはどうか」と運営推進会議メンバーから意見が出た。上層部から「検討する」という回答があり、運営に関する意見や要望を吸い上げてくれる体制がある。職員同士もよくコミュニケーションが取れている。	職員は運営推進会議メンバーの意見もしっかり受け止め、課題として職員間で話し合い、改善につなげようと努めている事が記録からもよく分かり、法人内での連携もよく取れていて素晴らしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則等の労働条件や研修制度、及びあすなろ園柏台グループホーム運営方針に基づき、職場環境・条件の整備に努めている。GHに足を運ぶことや会議録により、職員の意識や働く姿勢などを把握している。入居者と一緒に日々の生活をどのようにしていくか、又、生活環境整備を如何に整えていくかなどの働きかけを行い、自分たちで形作っていけるよう促している。年度末には、人事考課制度により職員個々の自己評価、管理者による評価を行っている。又、次年度に向けての目標や将来像なども記することにより人事や研修制度への参考になっている。給与水準については、人件費率約70%となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成担当者を配置(法人全体)し、研修を受ける機会の確保、各種外部研修への派遣を行っている。(介護職員初任者研修、認知症実践リーダー研修など)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修の受け入れや、講師で当事業所に来ていただき、交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報に囚われず、ご本人としっかり向き合っている。思いを受け止められるように、不安なこと・悩み・願い等のサインを見逃さないように意識してコミュニケーションを図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所について契約の締結及び重要事項説明時に要望等を確認している。また、面会時に様子の報告や不安なことはないか確認したり、ご家族の思いを聞くようにしている。面会が少ない人にはこまめに連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで過ごしてきた生活を継続出来るように、意欲的な思いを受け止め一緒に行なえるようにしている。できることを引き出し、自信に繋げていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を報告しこまめな情報交換を図っている。遠方のためなかなか来所できない家族へは電話にて状態報告や情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのものは持参を促し、面会については特に制限せず、できるだけ触れあいの場を提供し、生活状況をみて頂くようお願いしている。また、いきつけの店に行く機会を設け、今までの関係が途切れないように支援している。	日頃から家族の面会は多いが、夫婦で隣同士の部屋に入居してお互いに行き来している人もいて、馴染みの関係が継続出来ているケースもある。町内会の餅つきに利用者・職員で参加して馴染みの人に会えるように気をつけたり、自宅までのドライブや墓参り等に出かける等、配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の対話の橋渡しをし、利用者同士の交流が持てるようにしている。共用空間以外でも、希望があればそれぞれの部屋を歩き来して交流できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所検討委員会を定期的に開催し、各部署の状況報告を行っている。グループホームでの受け入れが困難な場合には特養へ紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に悩み相談、要望などの訴えがあるときやいつもと表情・動きなどに変化があった時はゆっくり話に傾聴し想いに寄り添い、個々の思いや意向の把握に努めた。	年1回は本人アンケートをしているし、日常の会話の中から利用者の思いを引き出すようにしており、利用者から「冷麺が食べたい」という希望がありメニューに取り入れた事もある。難聴で補聴器をしている人とは、ホワイトボードを使って筆談で会話をし、コミュニケーションを取り合っていた。	職員と利用者とのコミュニケーションがよく取れていて、昔の思い出話(回想法)を取り入れた会話等、記憶の想起につながる工夫がよく出来ていると思う。これからも利用者としっかり会話をして「心のケア」に繋げて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活歴を聞いたり、日頃の会話の中で本人と昔話を交えながら今までの個々の生い立ちについて探り、知り得た情報を今後のケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	動作能力にとらわれず、できること・したいことを確認しながら、一人ひとりのペースに合わせ、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時関係職員と話し合いの場を設け、意見の交換をしている。本人の想いを聞いたり、家族へも現状報告や意向を確認し、情報交換をこまめに行っている。	ある人のケアプランの中に「昔の会話の中より本人の楽しみ・生きがいにつながる事を見つけ実現する」という記述があった。本人の言葉や行動から思いを感じ取り、日々の生活に活かそうと取り組んでいる様子が確認出来、「心のケア」に重点を置いたプランを作成している事がよく分かった。	介護記録をペーパーレスにして、PCソフトでの記録にしているので支援内容が中心となり、利用者の発言・行動等の記録が少なく心理的な把握に欠ける点があるので、例えば手書きのメモで残す等、職員間で話し合い情報の共有化を検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や職員間の連絡ノートを通して情報共有を図り、実践に繋げている。記録が少ない場合はできるかぎり関わりの中で得た情報をこまめに残せるようその都度職員間で声をかけあいケアプランに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談者の状況に応じた法人運営のサービス(特養、デイ)の紹介をしている。個々の状態により必要に応じて福祉用具等の利用について家族と相談しより良い方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの医療機関、郵便局、スーパーでの買い物等を行い、今までの生活を維持しながら豊かな生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診可能な病院は往診依頼している。家族と一緒に受診できない時は、職員が付き添い対応している。入居前のかかりつけ医や、希望の病院がある場合は意向に添えるよう対応している。往診、受診時は日頃の様子を報告したり、薬について相談している。体調不良時はその都度かかりつけ医へ連絡し、指示を仰いでいる。	月2回ホームの協力医の往診があり、今日は午後からDrの往診があった。重度化した場合や緊急時への対応には迅速な連携体制が取れているので安心出来る。他科受診は原則家族にお願いしているが、訪問歯科を利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所の看護職員に相談などを行い、協働している。利用者の状態が変化した場合には様子をこまめに記録し、病院受診時に担当看護師、医師に詳しい情報が伝えられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前後の利用者の体調面について情報提供をこまめに行い、退院までに病院関係者とカンファレンスを行なっている。また、退院後の生活についても相談しながら安心して過ごせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本方針は契約時に説明し、状態変化に伴いその都度話し合いを行っている。重度化した場合、本人・家族・医師・看護師・相談員・ケアマネと今後の方針の共有と支援を行っている。	今年度も3名の看取りをした。家族から「ホームで最期を」と希望があり、一緒に入居している妻にも看取られながら安らかに旅立った。どのケースも家族が協力的であり、医療機関とも連携しながら最後まで出来る限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に緊急時の対応についてマニュアルに添った指導を行っている。事故発生時の対応についてのシュミレーションを行い、いざという時に落ち着いて行動できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災対策特別委員会を開催し、災害対策についての課題解決に向け検討を行っている。定期的な訓練を実施している。地域とも協力体制を取り合同での訓練も行っている。	年2回火災訓練を隣接のデイサービスと合同で実施しており、夜間想定地震対策・避難訓練もしている。外浜自主防災との合同防災訓練、消防車・救急車の乗車会、非常食の試食会等日頃から災害対策には力を入れており、地域との連携もよく取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	6月にプライバシー保護の内部研修に参加し、参加できなかった職員にはフィードバックを行った。研修で学んだことを活かし、現場で実践できるようにしている。	個人情報保護については日頃から職員間で共通認識を持っており、法人全体で内部研修をしている。呼称は基本利用者の苗字「～さん」と呼ぶようにしているが、時と場合に応じて、事前に利用者・家族に希望を伺い愛称を呼ぶ例もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気、関係づくりに努め、日常会話の中で希望を確認したり、自己決定できるように声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を確認し、個々の生活パターンにあわせ、ペースを守りながらゆったりとした生活を送れるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に本人と一緒に衣類準備を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意思確認を行ったうえで料理の下ごしらえや味見、食後の食器拭きやテーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。利用者の好みものを聴き、一緒に作っている。	厨房で毎日職員が手作りし、メニューも担当の職員が作成して買い物をしている。1・2階でメニューが異なりそれぞれ利用者に合わせて作っている。ミキサー食で全介助の人もいるがほとんどの人は昼食の稲荷寿司等をお替りしながら美味しく食べていた。日頃は介助が必要な人も、今日の昼食では食が進み自力摂取で完食していた。	食を大切にし、開設以来毎年正月にはおせち料理(重箱で提供)を作り、利用者にも大変喜ばれていると聞いている。これからも季節の折々の行事に合わせた食事作りを継続して下さい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 一人ひとりの状態や習慣に応じた食事量・水分量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう支援をしている	栄養バランスをみながら献立作成を行っている。個々の摂取状況に合わせた形態で提供している。毎月の体重測定で増減を把握したうえで主治医とも相談しながら食事量を調整している。一日の食事量・水分量をチェックし、お茶の時間以外にも随時声かけ・促しを行い摂取量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、入れ歯の手入れの声かけ及び介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄介助と本人の訴えがあった時に声かけを行い誘導を行っている。又、自立に向け、排泄間隔を考慮したうえで随時声かけ促しによりトイレ誘導、介助を行っている。	各居室にトイレが設置してあり、車椅子にも対応出来るように吊るし戸になっている。排泄が自立で自分でトイレに行く人が数名おり布パンツの人もいるが、リハビリパンツ、パット使用、紙おしめの人もいて、個々の排泄状況に合わせて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取を促し、果物やヨーグルトなどを提供し便秘予防に繋がるよう工夫している。ボール投げや座ってできる体操などを取り入れ少しでも体を動かす運動ができるよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴ができるよう配慮している。声かけを行い、本人とタイミングが合わない場合は時間をずらしたり、翌日に入浴できるよう調整している。	全体的には風呂好きな人が多く、浴室の戸に「美人の湯」と表示して温泉気分を演出している。殆どの人はマンツーマンで介助しながらゆっくり入ってもらっているが、入るまでは大変だが入ってしまえばOKという人もいて、「着替えをしに行きましょうか」等と声掛けを工夫していると聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床時間は本人のペースに合わせて声かけを行っている。日中の休息も本人の意向に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分包されている内服薬の服薬介助を行っている。服薬後はしっかり様子観察を行い毎朝バイタル測定を行っている。薬の目的、用法、用量、副作用については変更時に職員全員で周知している。わからないところがあった時にはその都度、職員間で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好の把握に努め、できること、興味や関心のあることを提供し意欲を引き出すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴等は希望に応じて対応している。買い物や地域交流場への外出は随時希望を確認し実施できるよう配慮している。家族との外出は体調を考慮しながら実施できるよう支援している。	非日常を味わってもらおうと、花見やドライブ・外食等に出かけ楽しんでもらっている。近隣のスーパーに買い物に出かけた際は、誕生日のプレゼントを自分で選んで買ってもらう事もあり、自己決定を尊重している。家族の協力も得られ、外出や外食はもとより、年に数回は外泊して家族と過ごす人もいる等、個別の外出支援にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、小遣い程度を所持してる人もいる。本人管理が極めて困難な人は所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話をかけたいときや手紙を書きたいときにはやり取りができるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面では大きな刺激がないよう配慮し、不快な思いや不安をまねくことのないよう注意している。空調は外部との温度差が大きくなるようにこまめに調整している。季節の花を生けたり壁画を飾ったりして殺風景にならないよう配慮している。	午前中、2階のリビングではスイカ割のアクティビティがあり、利用者それぞれ棒を手に大奮闘。美味しいスイカは昼食のデザートになった。リビングや廊下の壁に展示された塗り絵や手作り作品、イベントの写真等を見ても日頃の活動が活発であることが分かる。清潔で明るい環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるよう席に配慮している。他者との交流が苦手な方は職員と個別にお話をするなどの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品(写真や置物など)を持参してもらおうよう家族に協力依頼し、昔を懐かしんでもらうことで心が落ち着き心地よく過ごせる等の工夫をしている。	畳敷きの部屋、フローリングの部屋があるが、ベッドを持ち込み転倒防止にカーペットを敷いたり、家族の写真を飾ったり、テレビや使い慣れた家具を置く等、居心地よく暮らせる工夫が随所に見られ、家族の愛情をいっぱい感じられる居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下のバリアフリー、トイレ、浴室等の手すり、ベッドの移動バー設置等により、できるだけ残存能力を活かせるよう工夫し、自立した生活が送れるよう配慮している。		